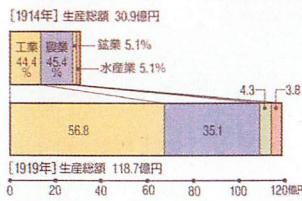




どうしてこんなに人が集まっているのかな。

①国会議事堂を取りまく民衆
「大正」と年号が変わって間もない1913(大正2)年2月、数万の民衆が国会議事堂を取りまく、桂内閣の退陣をせまりました。

5 大正デモクラシーと政党内閣の成立



②工業生産額と農業生産額の変化(日本資本主義発達史年表) 大戦景気によって、国内の工業生産額が大幅に伸びました。特に重化学工業が発展しましたが、なかでも鉄鋼の分野は生産量が大きく増加しました。

③原敬
(1856～1921)
それまでの首相とちがい、華族ではなくからことから、「平民宰相」と呼ばれて、親されました。
1919年に選挙法を改正し、選挙権を持つために必要な納税額をこれまでの10円以上から3円以上に引き下げました。→p.209(京都 国立国会図書館蔵)

大正時代の社会や政治にはどのような特色があるのでしょうか。

第一次護憲運動

日露戦争前後の政治は、藩閥、官僚勢力と、立憲政友会とが交互に政権を担当しました。→p.177
しかし1912年、立憲政友会の内閣がたおされ、藩閥の桂太郎が首相になると、新聞や知識人は、藩閥をたおし、憲法に基づく政治を守ることをスローガンとする運動を起こしました(第一次護憲運動)。民衆もこれを支持して運動が盛り上がったため、桂内閣は退陣しました。

大戦景気と米騒動

第一次世界大戦によって、日本経済は好況になりました(大戦景気)。連合国やその植民地、アメリカへの工業製品の輸出が大幅に増える一方、大戦で欧米からの輸入が止まることから、重化学工業を中心に新たな産業がおこり、工業国としての基礎が築かれました。→p.277

しかし、好況で物価が上がったために、民衆の生活は苦しくなり、さらに1918(大正7)年、シベリア出兵を見こした米の買いしめから、米の値段が大幅に上ると、米の安売りを求める騒動(米騒動)が全国に広がりました。政府は軍隊を出動させて鎮圧しました。→p.201

本格的な政党内閣の成立

藩閥の寺内正毅内閣が米騒動によって退陣すると、原敬が内閣を組織しました。これは、→p.202(この見開きの時間)



④米騒動の様子(左)と米騒動を伝える新聞
(上:米騒動絵巻 愛知県 德川美術館蔵、左:「東京朝日新聞」1918年8月10日) 富山県の魚津町(現在の魚津市)で始まった騒動は、新聞報道を通じて、全国の主要な都市に広がりました。上の絵は名古屋での騒動を、軍隊が出動して鎮圧している様子です。

⑤吉野作造の民主主義
民主主義といえば、「国家の主権は人民にあり」という危険な学説と混同されやすい。また、平民政義といえば、平民と貴族とを対立させ、貴族を敵にして、平民に味方する意味で誤解されるおそれがある。民主主義という言葉にはそうした欠点はないが、民衆を重んじるという意味が表れない。我々が憲政の根底とするのは、國体の君主制か共和制かに関係なく、一般民衆を重んじ、貴賤上下の区別をしないことである。したがって、民主主義という用語がいちばん適当であるかと思う。(部分要約)



⑥吉野作造(左:1878～1933)と美濃部達吉(1873～1948)

年	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
綱文	弾生	古墳	平安	鎌倉	南北朝	室町	江戸	明治	昭和	平成	大正										



6 広がる社会運動と普通選挙の実現

デモクラシーの風潮は、どのような運動に発展していくのでしょうか。

社会運動の広がり

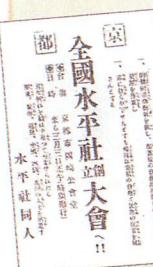
第一次世界大戦後、労働運動や農民運動、女性運動などの社会運動が活発になり、社会主義の思想も広まりました。

労働運動では、大戦中の経済の発展によって労働者が大幅に増加して、ストライキなどの労働争議もしきりに起こりました。大戦前に結成されていた友愛会は労働組合の全国組織へと発展し、1920(大正9)年には日本で最初のメーテーを主催しました。1921年には日本労働総同盟に改称し、労働者の団結と労働条件の改善を求めました。

農村でも、小作料の減額などを求める小作争議がしきりに起こり、1922年に全国組織として日本農民組合が結成されました。

社会主義運動も活性化し、1920年に日本社会主義同盟が結成されました。また、ロシア革命の影響で共産主義への関心が急速に高まる、1922年に日本共産党が結成されたが、これは非法のものでした。

部落差別に苦しむ被差別部落の人々も、政府にたよらず、自力で人間としての平等を勝ち取り、差別からの解放を目指す運動(部落解放運動)を進めました。



④ 全国水平社創立大会のビラ
(1922年3月3日
「全国水平社70年史」)



⑤ 全国水平社青年同盟の演説会で、差別とのたたかいを訴える山田少年(大蔵 1924年)
と創立大会での訴え(右)

私は役所の役人様や学校の先生の演説や話を聞きました。それらの人々は口をそろえて人間の平等が必要だとさけびます。人と人との差別は間違っていると言われます。そして、いかにもそのことを理解しているように、差別感情などこれっぽっちもないかのように言われますが、いったん教壇に立った先生のひとみは何と冷たいものでしょう。(部分要約)

1922年に京都で全国水平社が結成され、運動は全国に広がっていました。

北海道では、差別に苦しむアイヌ民族の解放運動も起こり、1930(昭和5)年には北海道アイヌ協会が結成され、日本の社会への同化政策に反対しました。

女性運動と男子普通選挙の実現

女性差別からの解放を目指す女性運動も盛んになりました。「新しい女」を目指し、青鞜社を結成して女性の解放を唱えてきた平塚らいてうは、1920年に新婦人協会を設立し、女性の政治活動の自由、女子高等教育の拡充、男女共学などを求める運動を広げました。また、女性が政治に参加する権利を求める運動も本格化しました。

一方、第一次世界大戦後には普通選挙を実現させようとする動きが高まりました。1924年、政党勢力は第二次護憲運動を起こし、憲政会党首の加藤高明を首相とする連立内閣を成立させました。

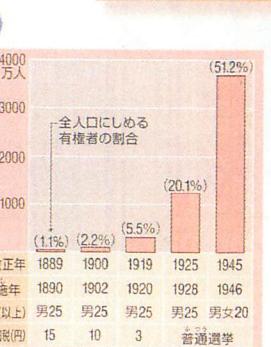
加藤内閣は1925年、納税額による制限を廃止して、満25歳以上の男子に選挙権をあたえる普通選挙法を成立させました。これによって有権者は約4倍に増加し、政治に広く国民の意向が反映される道が開かれました。しかし、女性には引き続き選挙権はあたえられませんでした。また、普通選挙法と同年に治安維持法が制定され、共産主義に対する取りしまりが強められました。

デモクラシーの風潮によって広まった社会運動について、参加している人々、中心になった団体、かけた要求などの項目ごとに整理しましょう。

⑥ 平塚らいてう
(1886 ~ 1971)
青鞜社は、女性差別からの解放を目指す、女性だけで構成された文芸集団でした。一方、新婦人協会は、平塚らいてう、市川房枝(1893 ~ 1981)を中心に行なわれ、女性の団結や男女の機会均等、権利の獲得をかけて活動しました。

⑦ 青鞜社の宣言(1911年)
元始、女性は実に太陽であった。真正の人であった。今、女性は月である。他によって生き、他の光によってかがやく、病人のように青白い顔の月である。私たちはかくされてしまった我が太陽を今や取りもどさなくてはならない。(部分要約)

⑧ 青鞜の表紙
(東京都 日本近代文学館蔵)



⑨ 有権者数の増加(「衆議院議員選挙の実績」)

① 完成直後の阪神甲子園球場 → p.9
1915(大正4)年に始まった全国中等学校優勝野球大会(現在の「夏の甲子園」)の会場として、1924年に完成了。(兵庫県西宮市)

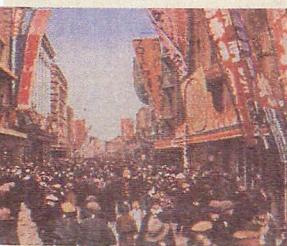


② 大正時代に売られていたキャラメルの箱 キャラメルは、明治時代から売られていきました。



③ ラジオが置かれた部屋(1925年)

7 新しい文化と生活



④ 浅草六区(着色写真) 東京の代表的な大衆娯楽街であった浅草の六区と呼ばれる地域には、映画の発展とともに、映画館が立ち並び、多くの人でぎわいました。

⑤ 大正時代には、どのような文化が生まれたのでしょうか。

教育の広がり

明治時代末期に小学校での義務教育がほぼ行きわたったのを受けて、大正時代には、中等、高等教育が広がりました。中学校や高等女学校(現在の高等学校)への進学率が高まり、大学や専門学校も�数が増えて、多くの知識人が生まれました。小学校では、個性を大切にし、自主性を重視する自由教育の運動も始められました。

大衆文化の発展

都市の発展と知識人の増加を背景に、活字化が広がりを見せました。新聞では発行部数が100万部をこえるものも現れるようになりました。週刊誌や、月刊の総合雑誌の発行部数が急速に伸びてきました。1冊1円の文学全集(円本)や、さらに低価格の岩波文庫などが出版され、文化の大衆化に大きな役割を果しました。子ども向けの雑誌が発行され、ヨーロッパ風の童謡や童話が広まつたのもこの時期です。

国産の活動写真(映画)も製作され、多くの観客を集めました。また蓄音機やレコードが広まる、歌謡曲が全国に流行するようになりました。1925(大正14)年に東京、名古屋、大阪で始まったラジオ放送は全国に普及し、新聞と並ぶ情報源になりました。

こうしたメディアの発達とともに、大衆小説、映画、歌謡曲や、

この辺りの時代		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
明治	大正	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21

この辺りの時代

明治
大正
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21

明治
大正
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21



東京都 芝城県

⑥ 柳宗悦(左:1889~1961)と板谷波山(1872~1963)

柳宗悦は、朝鮮の美術工芸や日本の民芸など、民衆の道具に美しさを見いだし、そうしたものを生み出す人々を敬愛しました。また、板谷波山は、陶磁という分野が「産業」から「芸術」へと変わっていく時期に、「芸術としての焼き物」を確立しました。

歴史にアクセス 関東大震災

1923(大正12)年9月1日、東京、横浜(神奈川県)を中心にマグニチュード7.9の大地震がおこり、これらの地域は壊滅状態になりました。被害は、全壊約11万戸、全焼約21万戸、死者・行方不明者は約10万5000人に達しました。混乱の中で、「朝鮮人や社会主義者が井戸に毒を入れた。暴動を起こす」といった流言が広がり、多くの朝鮮人、中国人や社会主義者などが殺されました。

一方で、震災は都市改造のきっかけにもなり、復興の中で、東京や横浜は近代的な都市として生まれ変わりました。(→p.271)



⑦ 関東大震災直後の東京



芥川龍之介
(1892~1927)
「羅生門」「地獄變」

など、古典文学から題材を取った短編小説を書く一方で、「蜘蛛の糸」「杜子春」といった、子ども向けの短編小説も書きました。



歐米化する暮らしと女性

1920年代には、衣服の欧米化も進みました。都市部では女子校の制服にセーラー服が採用され、女性の職場進出にともない、洋装の制服を着た女性が増えました。さらに、ひざ丈のスカートに帽子といった先端的な衣服の女性が銀座などの街に現れ、モダン・ガール(モガ)と呼ばれました。実際には、洋装をしていた人は人口の約1パーセントでしたが、着物でも結構大きく斬新な色づかいのものが流行しました。



⑧ 制服用に採用されたセーラー服
(福岡県 1922年)

野球などのスポーツが大衆の娯楽として定着していきました。

新しい思想や文化

学問や芸術にも新しい傾向が生まれました。

学問では、東洋と西洋の哲学を統一しようとした哲学者の西田幾多郎や民芸運動を起こした柳宗悦など、独創的な研究者が現れました。

文学では、自然主義に反対して個人を尊重した、志賀直哉などの白樺派をはじめ、谷崎潤一郎や、知性的な短編小説で人々に新鮮な印象をあたえた芥川龍之介などが、優れた作品を発表しました。また、小林多喜二などが労働者の生活をえがき、プロレタリアア文学も流行しました。

美術では洋画の岸田劉生や竹久夢二などが活躍し、音楽では、童謡に多くの作品を残した野口雨情をはじめ、日本で最初の職業オーケストラを組織した洋楽の山田耕筰や、邦楽(箏曲)の宮城道雄などが新風をふきこみました。

都市の生活

ガス、水道、電気などの広がりによって、都市では欧米風の生活様式が広まりました。欧米風の外観や応接室を持った「文化住宅」が流行し、ライスカレー、トンカツ、コロッケなどの洋食が広まりました。

洋服はまず男性に普及しましたが、バスガールや電話交換手などの働く女性が増加し、高等女学校の制服に洋服が採用されたことなどから、女性にも広がり始めました。

⑨ 大正時代に生まれた新しい文化によって、人々の生活はどう変わったか説明しましょう。